



日本ワクチン学会 ニュースレター

vol.19

目 次

1. 第14回日本ワクチン学会学術集会を終えて
第14回学術集会会長 岡部 信彦……………2
2. ワクチン関連トピックス
 - 1) トピックスI 『「日本のワクチン—開発と品質管理の歴史的検証—」
編纂・出版について』……………3
 - 2) トピックスII 『日本脳炎ワクチン』……………4
3. 第15回日本ワクチン学会学術集会のお知らせ（第1報）
第15回学術集会会長 中山 哲夫……………4
4. 第6回高橋賞募集のご案内……………5
5. 会員会告
 - 1) 2010年度第1回日本ワクチン学会理事会議事録（2010年3月13日）……………6
 - 2) 2010年度第1回Vaccine誌編集委員会議事録（2010年6月20日）……………8

§ 第 14 回日本ワクチン学会学術集會を終えて

第 14 回学術集會会長

岡部信彦

国立感染症研究所感染症情報センター

第 14 回日本ワクチン学会学術集會の担当をお引き受けしたのは 2 年前、平成 20 (2008) 年でした。「新型インフルエンザによるパンデミック発生時には、開催できるかどうかわかりませんが・・・」と頼りないご挨拶を申し上げたのですが、幸か不幸かパンデミックは平成 21 (2009) 年に発生してしまいました。余波の多忙さはあったものの、学会の開催そのものに影響を与えることはなく、平成 22 年 12 月 11 - 12 日、東京都千代田区の九段会館で第 14 回日本ワクチン学会学術集會を無事開催することができました。

パンデミックは、インフルエンザという疾病、感染対策、公衆衛生対応、ウイルス学など医学・科学に新たな進歩・理解そして宿題を残し、ワクチン領域にも大きな影響を与えました。ことに「ワクチン」というものの重要性と課題について、多くの人の耳目を惹いたと思います。その影響を受けたか、演題申し込みは 93 に達し、時間の配分にうれしい悲鳴を上げました。インフルエンザ関連演題はおよそ 1/3 でしたが、申し込み演題の内容はインフルエンザに限ることなく幅広い、充実したものであり、第一日目は 2 会場で、2 日目は 3 会場で一般演題の口演発表を行うこととし、「体表面バリアにおける感染とワクチン開発戦略」としてインフルエンザ関連の 8 演題と、新規ワクチン関連の 9 演題をワークショップとしてまとめました。

今回の学術集會テーマは「ワクチン先進国に向けて」とし、招請講演 1 を米国 ACIP の実行委員長である Dr.L.Pickering をお招きし、米国 ACIP について直接お話しいただきました。招請講演 2 は、前 WHO 西太平洋地域事務局 (WPRO) 局長の尾身茂先生 (現自治医大教授) にワクチンを含んだグローバルな視点での感染症対策についてお話しいただきました。今年は WPRO におけるポリオ根絶 10 周年にあたるため、その活動の中心にあった前感染研所長の宮村達男先生に、現在のポリオ対策の課題も含めて特別講演としてお話しいただきました。シンポジウム 1 は、まさに学会テーマそのものである「ワクチン先進国に向けてー我が国これからの流れー」をタイトルとして、中山哲夫先生 (北里大生命科学研究所) と岡部が司会担当をし、亀井美登里先生 (厚労省結核感染症課)、加藤達

夫先生 (成育医療センター)、鹿野真弓先生 (PMDA 生物系審査第 II 部)、樋口範雄先生 (東大法学部) らより、多角的に議論していただきました。シンポジウム 2 は、その対策には世界からの注目を浴びている我が国の麻疹排除活動とその状況について「麻疹 elimination - 2012 年はすぐそこに」のタイトルで、富樫武弘先生 (札幌市立大看護学部)・太田文夫先生 (千葉市開業) の司会のもと、竹田誠先生 (感染研ウイルス第三部)、中村英夫先生 (石川県開業)、長谷川純子先生 (茨城県立波崎高校)、山本峰次先生 (共同通信科学部)、多屋馨子先生 (感染研情報センター) らに、それぞれの立場から今後行うべきことについて議論していただきました。司会と演者全員が麻疹・風疹根絶の赤 T シャツを着ての熱い議論でした。

今回の高橋賞は富樫武弘先生が受賞され「ワクチン接種で予防可能な小児期感染症の研究」として受賞講演をされました。

また学術集會開催に賛同していただいたワクチン関連企業の方々との共催によって、6 つの教育セミナーも行われました

一般演題はもとよりワークショップ、招請講演、特別講演、シンポジウムなど、いずれでも熱心な意見交換、質問などがあり、どの会場も熱気が溢れていましたが、そのような中、それぞれの座長の方々そして参加者のご協力から、全体の時間もあまり狂うことなく進めることができました。そして意見交換会にも多数の参加を頂き、早稲田大学アカペラグループの素晴らしい歌声に包まれながら和やかな歓談が続きました。

今回は全国から参加された 834 人の皆様によって、実り多い学会に盛り上げて頂きました。参加頂いた多くの方々はこの場を借りて厚く御礼を申し上げます。また本学会の学術集會としての意義をご理解いただき、応援を頂いた企業の皆様にも厚く御礼申し上げます。

多くの人々が感染症から守られるためのワクチン学の発展に、今回の学術集會がいささかでも貢献できたとすれば、本集會の運営に携わった国立感染症研究所感染症情報センター一同にとって大きな喜びです。

§ ワクチン関連トピックス

トピックス I

「日本のワクチン—開発と品質管理の歴史的検証—」編纂・出版について

高橋元秀（国立感染症研究所）

ワクチンの専門書としては、「ワクチン」、「ワクチンハンドブック」等が国立感染症研究所（感染研）学友会から出版されているが、過去から現在までに至るワクチンの開発史や感染症制圧に貢献した歴史的書物は出版されておりません。感染研が創立 60 年を迎えた平成 19 年に、わが国のワクチン史を後世に記録として引き継ぐ必要を感じて、感染研学友会の活動・事業として出版が検討されました。国内のワクチン製造所から事業への参加・協力を求めて、候補出版社の担当者とともに企画の趣旨を含む詳細説明をおこないましたが、最終的に出版に要する費用の工面が困難で計画は事実上挫折をしておりませんでした。

平成 21 年の日本ワクチン学会理事会において、本事業をワクチン学会として取り組むことの提案があり、庵原俊昭、城野洋一郎、石川豊数、高橋元秀の理事 4 名がワーキンググループとして出版について検討することとなりました。先の計画で調整が難航した出版社との費用の問題は、(株) 医薬ジャーナル社と相談した結果、単行本として出版し、経済的負担について全面的な支援の約束をいただきました。そこで、出版に際して製造関連の執筆や歴史的資料は現存する国内ワクチン製造所の協力が必須であり、細菌製剤協会理事会を通じて再度協力を求めました。その結果、編集員として北里研究所の長井正昭、武田薬品の伊藤康明、デンカ生研の高杉憲一、細菌製剤協会事務局の伏見 環の各氏が参加していただけることになりました。ワクチン学会理事である化血研の城野洋一郎、阪大微研の石川豊数の両理事には、製造所の立場でも参加いただくこととなります。さらに、多くの執筆者の所属先である感染研の先生方のまとめ役として、倉根一郎副所長（ワクチン学会理事長）、佐々木次雄元室長（現：総合機構）、出版元の医薬ジャーナル社南 晃編集部課長に参加をいただき、「日本のワクチン—開発と品質管理の歴史的検証—」編集委員会が平成 22 年 10 月に組織され、記載内容として以下の具体的内容が検討されています。

1. 日本における予防接種史、副反応訴訟、ワクチン製造量、供給量、等
2. 各ワクチン製造所の歴史、細菌製剤協会の歴史
3. 国会厚生委員会でのワクチンに関する主な資料（BCG、ポリオ、ジフテリア、他）
4. 生物学的製剤基準の歴史
5. 日本で開発されたワクチンの歴史
6. 歴史的写真（日本のワクチン開発、品質管理に貢献した歴史的な方々の紹介、ワクチン製造や品質管理に関する歴史的写真、等）
7. 旧国立予防衛生研究所が国家検定機関として発足した経緯

今後の出版に関する執筆・編集の予定は、

1. 各所社に歴史的な写真の提出を求めて挿入するとともに、トピックとして製剤特有な開発・製造、品質管理および臨床現場の実例を記載する。
2. 臨床現場からの執筆内容は主にトピックスとして記載する。
3. 品質管理の歴史については、感染研の検定製剤担当責任者を中心に原稿依頼する。
4. ワクチン各論としては、ワクチン毎に製造各所社に担当を割り振り、決定した製造所社の分担者を中心に執筆する。
5. BCG とポリオについては、細菌製剤協会経由で執筆を依頼する。情報として、過去の研究会資料、研究班の出版物等を利用する。
6. 執筆のモデルとして、DPT ワクチンについて早急に作成して、他の各論ワクチンの執筆に参考とする。

最終的な出版は平成 24 年の春を予定しておりますので、各会員の方々におかれましては、日本のワクチンの開発、製造および品質管理に関わる写真、資料、書物等がありましたら、ご提供いただきますようお願いいたします。また、本出版事業で集まりました貴重な資料は、日本ワクチン学会、細菌製剤協会と相談して適当な保管場所を用意して保存することも検討したいと考えております。資料の提供とあわせて、ご意見がありましたら、ご連絡下さい。

日本脳炎ワクチン

倉根一郎（国立感染症研究所）

日本脳炎はアジアにおける最も重要な流行性ウイルス脳炎といえる。わが国においては、近年患者数が年 10 人以下であるが、一度発症すれば約 20% の患者が死亡、死を免れたとしても半数は精神神経に後遺症を残す重篤な疾患である。日本脳炎の発症を防ぐためには、ワクチンによってヒトに防御免疫を付与することが第一の選択である。

日本においてはマウス脳由来不活化日本脳炎ワクチンが長く使用されてきた。このワクチンは 1954 年実用化され、その後大きな改良が加えられた。日本においては 1989 年から、それまでの日本脳炎ウイルス中山株から北京株に変更された。平成 17 年 5 月 30 日、厚生労働省より「日本脳炎ワクチン接種の積極的勧奨の差し控えについて」の勧告がなされた。この積極的勧奨の差し控えは、予防接種法による日本脳炎ワクチンの接種を中止したのではなく、日本脳炎ウイルスの活動がある地域に居住する接種対象者は、日本脳炎ワクチン接種を受けることが可能であった。しかし現実には、その後日本脳炎ワクチンの接種率は非常に低くなった。

このマウス脳由来不活化日本脳炎ワクチンに代わるものとして Vero 細胞を用いた日本脳炎ワクチンの開発が進められてきた。Vero 細胞由来不活化日本脳炎ワクチンは、乾燥細胞培養日本脳炎ワクチンとして、平成 21 年 2 月 23 日付で薬事法上の承認を受け、平成 21 年 6 月には定期の第 1 期予防接種に使用可能なワクチンとして

位置づけられた。平成 22 年 4 月 1 日に厚生労働省より定期の第 1 期の標準接種期間の小児について積極的勧奨を再開する旨の通知がなされた。また、平成 22 年 8 月には乾燥細胞培養日本脳炎ワクチンが定期の第 2 期の予防接種に使用可能なワクチンとしても位置づけられた。以上の一連の経過によって、乾燥細胞培養日本脳炎ワクチンは第 1 期、第 2 期いずれの予防接種にも使用可能なワクチンとなった。

わが国において、日本脳炎ワクチンは定期接種として規定されているが、今後は定期接種としての接種に加えて、平成 17 年から平成 22 年の積極的勧奨の再開までの間に、日本脳炎ワクチン接種の機会を逃した小児に対する接種が重要となる。ワクチン接種を逃した小児に必要な今後の接種は以下ようになる。①平成 17 年から平成 21 年までの間に第 1 期接種機会を逃した者。これらの小児には 1 期 3 回の接種を全く受けていない者、1 度受けた者、2 度受けた者と種々のパターンがある。②通常の 1 期接種を受けたが、平成 17 年から平成 21 年までの間に 2 期の接種機会を逃した者。現在の、予防接種実施規則においては政令によって、6 月以上 7 歳 6 月未満、9 歳以上 13 歳未満が接種年齢となっているが、これらの年齢に含まれない年齢における接種も必要になる可能性があり、予防接種実施規則の改正による接種年齢の変更も必要になる可能性がある。また、必要量を供給するためのワクチン生産量の増加も必要な要因となる。

§ 第 15 回日本ワクチン学会学術集会のお知らせ（第 1 報）

第 15 回日本ワクチン学会学術集会を平成 23 年 12 月 10 日（土）、11 日（日）の 2 日間、日本教育会館（一ツ橋ホール）で開催することになりました。学会の成否は一般演題にかかってきます。今からでも遅くありません。実験研究に弾みをつけて多くの演題の応募、御参加をお願いいたします。

会 長：中山哲夫（北里生命科学研究所）

会 期：2011 年（平成 23 年）12 月 10 日（土）、11 日（日）

テーマ：「ワクチン：教育と啓発をマジでしないと」

更なる予防接種の普及には医師を含めた co-medical の教育、啓発が重要な位置を占めてきます。現状の解析と将来に向けて考えてみたいと思います。

会 場：日本教育会館（一ツ橋ホール）

〒 101-0003 東京都千代田区一ツ橋 2-6-2

最寄りの駅：「神保町」都営新宿線、都営三田線、東京メトロ半蔵門線

<お問い合わせ>

事務局：第15回日本ワクチン学会学術集会事務局
渡邊峰雄（わたなべ みねお）
北里大学 大学院感染制御科学府
ワクチン学専攻 免疫機能制御学研究室
108-8641 東京都港区白金 5-9-1
TEL 03-5791-6122
FAX 03-5791-6122
EMAIL watanam@lisci.kitasato-u.ac.jp
watanam@gmail.com

§ 第6回（2011年）日本ワクチン学会高橋賞 応募要綱

第6回（2011年）日本ワクチン学会高橋賞の候補者を公募いたします。応募希望者は下記の要綱に従ってご応募下さい。

応募期間：2010年12月1日（水）～2011年3月31日（木）（必着）
※必ず配達記録の残るものでご応募下さい。

応募書類送付先：〒169-0072 東京都新宿区大久保2丁目4番地12号新宿ラムダックスビル10階
（株）春恒社学会事業部内 日本ワクチン学会係
TEL：03-5291-6231 / FAX：03-5291-2176

1. 本賞の趣旨

日本ワクチン学会高橋賞は、高橋理明先生の開発された水痘ワクチンが、財団法人阪大微生物病研究会によりほぼ全世界で実用化された事を記念し創設された。創設にあたり、同財団より高橋記念基金が当学会に寄贈された。日本ワクチン学会高橋賞は、本学会の創立趣旨に沿って学問的・実学的に卓越した貢献をされた方を授賞の対象とする。

2. 対象者

- 1) 本賞は本学会の創立趣旨に沿ってワクチンに関する基礎研究、臨床応用、製造開発、疫学研究において卓越した貢献をされた方を授賞の対象とする。
- 2) 原則として本学会会員とし、年齢制限は設けない。

3. 応募方法

以下の書類を揃えて（株）春恒社学会事業部内 日本ワクチン学会係まで、2011年3月31日（木）（必着）にてお送り下さい。

- 1) 本会所定の申請書【原本とコピー7部を添付】
- 2) 研究業績の要約（2,000字以内）【原本とコピー7部を添付】
- 3) 研究業績リスト（別紙1枚以内）【原本とコピー7部を添付】
- 4) 関連研究業績別刷（5編以内）各8部
- 5) 自薦の場合には本人の研究についての抱負、他薦の場合は本学会員の推薦状1通（双方ともにA4版1枚まで）【原本とコピー7部を添付】
※1～5)までを1セットとし、計8部を送付すること。
※応募書類については、当学会ホームページ（<http://www.jsvac.jp/>）よりダウンロードして下さい。

4. 選考と発表

- 1) 選考は理事長に加えて理事会で承認された学会員以外を含めた合計7名で構成する選考委員会で行い、委員会での決定事項は理事会での承認を必要とする。
なお、受賞者が選考委員会で決着を見ない場合は理事全員の意見を求める。

- 2) 受賞は原則毎年2名とし、功労的なもの1名、基礎研究的なもの1名とする。
- 3) 日本ワクチン学会総会にて理事長より賞状及び副賞を授与する。
- 4) 総会において受賞者による記念講演を行うとともに当学会が指定する刊行物に総説を発表する。
- 5) 受賞者には2011年8月末までに通知いたします。

§ 2010年度第1回日本ワクチン学会理事会議事録

日 時：2010年3月13日（土）17：00～19：30

場 所：国立感染症研究所 共用第二会議室

出席者：倉根一郎（理事長）、石川豊数、庵原俊昭、岡田賢司、岡部信彦、奥野良信、尾崎隆男、城野洋一郎、清野 宏、西條政幸、鹿野真弓、高橋元秀、中山哲夫、廣田良夫、宮崎千明
各理事

山西弘一 監事 神谷 齊（オブザーバー） 古田真塩（記録（株）春恒社）

欠席者：荒川宜親 監事

報告事項

1. 前回議事録の確認【資料：1】

倉根一郎理事長から2009年度第2回理事会議事録の報告がなされ、承認された。

2. 2010年度-2011年度役員担当について【資料：2】

倉根一郎理事長から選出した監事、推薦理事、担当役員につき紹介がなされた。

監事 荒川宜親（国立感染症研究所）

監事 山西弘一（医薬基盤研究所）

推薦理事 西條政幸

財務担当理事 石川豊数、城野洋一郎

広報担当理事 清野 宏

ニュースレター担当理事 高橋元秀

Vaccine誌編集担当理事 西條政幸

3. 一般経過報告【資料：3】

倉根一郎理事長から2010年2月28日現在の会員数の現況を含む一般経過報告がなされた。

4. 平成21年度決算報告および会計監査報告【資料：4】

1) 石川豊数財務担当理事から報告がなされ承認された。また、平成21年度予算案の雑収入額記載誤りについて回覧資料が提示され、2009年度第2回理事会および第13回総会で提示した次年度予算案の対比部分の記載金額は誤っており、予算承認がなされた第12回総会資料への記載が正しいものであるとして訂正・報告がなされた。本件について第14回総会で報告することとした。

2) 山西弘一監事から平成21年度会計監査報告がなされた。

5. 第14回日本ワクチン学会学術集会報告【資料：5】

岡部信彦会長から報告がなされた。

会 期：2010年12月11日（土）～12日（日） 会場：九段会館テーマ：「ワクチン先進国に向けて」

6. 第15回日本ワクチン学会学術集会報告

中山哲夫次期会長から報告がなされた。

会 期：2011年12月10日（土）～11日（日） 会場：日本教育会館

7. Vaccine誌編集委員会報告【資料：7】

岡部信彦前担当理事（委員長）から2009年度第2回Vaccine誌編集委員会報告および現在までの進

捗状況の報告がなされた。本理事会終了後より、西條政幸新担当理事へ業務を引き継ぐこととした。

8. ニュースレターについて【資料：8】

倉根一郎理事長から Vol.18 の目次案とスケジュール案について報告がなされた。本理事会終了後より多屋馨子前担当理事より高橋元秀新担当理事へ業務を引き継ぐこととした。

9. 累積接種率調査に関する要望書について【資料：9】

倉根一郎理事長から前回理事会での決定を受け、山西弘一前理事長とともに本年1月21日に厚生労働省健康局結核感染症課福島靖正課長へ要望書を提出し受領された旨報告がなされた。その後の状況につき、先方へ問い合わせることとした。

10. 予防接種に関する学会間協議会準備会について【参考資料】

山西弘一監事（前理事長）から先方よりの依頼と担当委員選出の経緯が報告された。本件については昨年12月28日メール理事会をもって承認されている（担当委員：神谷 齊，倉田 毅）。引き続き神谷 齊担当委員から、準備会は終了し名称を「予防接種推進専門協議会」とし、代表に神谷 齊代表委員が選出され新たに活動を開始することが報告された。担当委員は神谷・倉田両先生に継続依頼することとした。協議会の事務取扱は日本小児科学会が行うが、参加経費は各学会負担となるため会議費から支出することとした。

11. ワクチン推進ワーキンググループ活動報告とその還元について【資料：11】

中山哲夫監事から以下の報告がなされた。

- 1) 沈降精製百日せきジフテリア破傷風ワクチン（DTaP）の追加接種臨床試験は予定通り2009年度をもって解析を終了し現在報告書を作成中である。報告書は厚生労働省研究班（神谷班，岡部班）へ提出予定である。
- 2) 次年度からの課題として筋肉注射と皮下注射の効果比較を考えている。メンバーは課題に沿って再構成することとし、選出後理事会へ報告する。

12. 「ワクチン60周年史」の進捗状況報告

高橋元秀理事から、細菌製剤協会へ編纂・出版への協力を依頼したところ、日本ワクチン学会が事業、出版の実施主体であれば協力は可能との回答を受けた旨報告がなされた。編集組織事業立ち上げにあたり理事会からワーキンググループを組織することとし、以下の通りメンバーが選出された。

高橋元秀理事（基礎研究系）
庵原俊昭理事（臨床応用系）
石川豊数理事（製造・開発系）
城野洋一郎理事（製造・開発系）

13. Vaccine Global Congress について

清野 宏担当理事から以下の報告と検討依頼がなされた。

- 1) 2009年10月4～6日にシンガポールで開催された Vaccine 3rd Global Congress の共同セッションについて報告がなされた。
- 2) 同4th Congress が2010年10月3～5日にオーストリアで開催されるが、共同セッションを行うか。→ 3rd Congress 同様に清野理事がオーガナイザーとなりセッションを行うこととした。
- 3) 同6th Congress（2012年）は東京開催が予定されているが、日本ワクチン学会と共催とするか。→ 共催する方向とし、詳細は清野理事と倉根理事長が中心となりワーキンググループを組織し検討することとした。

審議事項

1. 高橋賞選考委員会委員の選出について【資料：14】

倉根一郎理事長から同選考委員会の半数交代に伴い、非会員の委員は継続して光山正雄氏に依頼し

たいとの申し出があり承認された。引き続き2名改選にあたり選挙を行い、中山哲夫先生、廣田良夫先生が上位得票である旨が報告され、承認された。(次点：庵原俊昭先生)

2. 会則の改定について【資料：15】

倉根一郎理事長から会則4条に理事会成立の定足数について記載を追加すること、また理事に欠員が生じた場合の補充に関する付則についての説明・報告がなされ、承認された。欠員となった理事の後任は、欠員となった理事の任期を引き継ぎ、重任しないものとする事が確認された。(任期直後の理事選挙の被選挙権資格を有しない)

3. 多年度会費滞納者の退会処分について【資料：16】

3年以上会費滞納者(32名)の一覧が提示され、前年度に準じ滞納者に再度会費請求を行い、2010年4月30日までに入金のない場合は、退会処分とすることとなった。

4. 学術集会の運営について

倉根一郎理事長から学術集会の運営について会長一任から学会が一部を担う形とする提案がなされた。検討の結果、他学会の例などを調査し継続審議とすることとした。本年度は、第14回学術集會会計の銀行口座を理事長名義で作成するが、管理運営は従来通り会長一任とすることとした。

5. 第16回日本ワクチン学会学術集会について

第16回会長については、Vaccine 6th Global Congress との共催の関連からワーキンググループで検討し理事会へ推薦することとした。

6. 日本経済新聞社よりの広告企画について【資料：19】

清野 宏理事から日本経済新聞社より広告企画の提案があったが、学術研究団体の事業としては適さないと判断したとの報告がなされた。

以上

平成22年3月13日(土)

日本ワクチン学会

理事長 倉根一郎

§ 2010年度第1回日本ワクチン学会 Vaccine 誌編集委員会議事録

日時：2010年6月20日(日)12時10分～13時10分

場所：サンポートホール高松 62会議室

出席者：【委員長】西條政幸【委員】奥野良信、神谷 元、熊谷卓司、多屋馨子、中山哲夫

【記録】古田真塩((株)春恒社)

欠席者：【委員】浅野喜造、荒川宜親、清野 宏、田代真人、谷口清州

【ワザパー】倉根一郎

【出版社】海老原実(エルゼビア・ジャパン(株))

議事に先駆け、西條政幸委員長より、本年4月1日をもって岡部信彦前委員長から委員長を引き継いだ旨の報告と挨拶がなされた。

1. 前回議事録の確認【資料：1】

西條政幸委員長から前回議事録について報告がなされ、承認された。

2. Vaccine 誌への掲載原稿の進捗状況【資料：2】

以下の投稿原稿・原稿の進捗状況の報告がなされた。

1) 2009年度第2回委員会以降に掲載された原稿

第 12 回学術集会ワークショップ（小西先生、森田先生）：Vol.28 Issue50

2) 今後掲載予定のエルゼビア社入稿済み原稿

第 3 回高橋賞（千葉靖男先生）：査読担当 岡部前委員長

第 4 回高橋賞（田村慎一先生）：査読担当 岡部前委員長 奥野先生 西條委員長

第 14 回学術集会開催案内

<以上オンライン掲載済み>

第 13 回学術集会シンポジウム 1：査読担当 瀬谷先生 西條委員長

第 13 回学術集会シンポジウム 3：査読担当 西條委員長

3) 査読済み論文（再査読）

医事新報社の原稿英訳（馬場先生）→再々投稿あり、西條委員長が検討中

3. 今後の掲載予定について、依頼論文の整理

1) 第 1 回高橋賞受賞者の受賞研究についての総説（原稿担当：神谷先生）→本年 12 月脱稿予定。

2) 第 2 回高橋賞受賞者の受賞研究についての総説（原稿担当：清野先生）→投稿を再度依頼。

3) 馬場宏一先生の医事新報英訳 → 修正論文の投稿があり、西條委員長が再査読し再修正を依頼、馬場先生から再修正論文の投稿があった。最終判断は委員長に一任とし、受理の方向で進める。

4) 第 12 回学術集会ワークショップ「日本脳炎ワクチンの展望」未投稿分 → 投稿済の 2 名の論文が既に掲載済みであること、また開催から時間が経過したことから掲載取り止めとした。

5) 第 13 回学術集会シンポジウム 2 の総説執筆を依頼した喜田先生より、多忙により執筆辞退の連絡があり、委員長判断で了承した旨が報告された。

4. 今後の執筆依頼について

1) 第 5 回高橋賞受賞者（選考中）に受賞研究についての総説の執筆依頼を行う。

2) 「日本脳炎ワクチン」は重要なテーマであるため、第 12 回学術集会ワークショップとは別途、本テーマの総説の執筆を依頼することとした。執筆者は西條委員長が選考しメール委員会に諮る。

3) 第 14 回のシンポジウムおよびワークショップ等の総説執筆については、テーマと演者の中から数名を選出し事前に Vaccine 誌への review 投稿が可能であることを確認することとし、西條委員長と大会事務局（多屋先生）が選出案を作成、メール委員会で検討することとした。

4) 第 15 回学術集会アナウンスについては、プログラムが決まり次第原稿を作成いただく。

5. 掲載ページの有効利用について【資料 5】

現在、Vaccine 誌の 50 頁／年の利用が可能であるが、実際の利用頁数は多い年でも 40 頁強、少ない年は 10 頁前後に留まっている。頁の有効利用につき検討がなされた。

1) 日本の情報発信として、その年および数年先を視野に入れテーマを委員会で検討、執筆者を選考し総説執筆依頼を行うこととし、本年は次年のテーマをメール委員会で検討する。

2) 利用可能頁に原著論文を掲載することの可否について、エルゼビア社および立ち上げ時に中心となった清野先生に確認する。掲載が可能であれば、学術集会の演題から優秀なものを選考するなどし、執筆依頼を行う方向で検討を進めることとした。

6. その他

1) 委員構成について

今後の委員構成について検討すべきとの提案がなされた。

2) 次回の委員会について

次回理事会は、本年 12 月の学術集会前日または会期中に開催する予定である。日時の詳細は西條委員長と第 14 回学術集会事務局とで調整を行う。

以上

平成 22 年（2010 年）6 月 20 日（日）
日本ワクチン学会 Vaccine 誌編集委員会
（担当理事）委員長 西條政幸

日本ワクチン学会ニュースレター 第 19 号
2010 年 12 月 20 日発行

発行人 日本ワクチン学会

日本ワクチン学会事務局
〒 162-8640 東京都新宿区戸山 1-23-1 国立感染症研究所ウイルス第一部
日本ワクチン学会理事長 倉根 一郎

<http://www.jsvac.jp/>

<学会連絡先・入退会・住所変更・年会費>

〒 169-0072 東京都新宿区大久保 2 丁目 4 番地 12 号
新宿ラムダックスビル 10 階
(株) 春恒社 学会事業部内
日本ワクチン学会係

TEL : 03-5291-6231/FAX : 03-5291-2176/ E-mail : jsvac@shunkosha.com
